

紙版 ハコブネ×ブックス vol.20

<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐwebサイトです。



千の種のわたしへ 不思議な訪問者

作者 さとうまきこ
出版社 偕成社
発行 2013年9月
ISBN 978-4037271701

review



引つ込み思案な性格で、入学した私立中学に馴染めず、不登校になってしまった千種。何度も見たDVDを見返し、無為に時間を過ごしている毎日に焦燥を感じています。眠れないある夜、窓を開けた千種の名に現れたのはクスノキの精霊と名のる女の人。彼女は千種のことを守護し導くと約束します。その日から、千種のとこに不思議な訪問者が現れます。言葉が話すカラスに始まり、人ではない訪問者から何故か不幸な身の上話を聞かされ、その願いを叶えることになった千種は、彼の生き方に刺激を受け、前を向いて生きていく気概を持ちはじめます。千の可能性を持った種である自分を信じられるか。心を決めて、窓を開けなくては。彼女を見守る優しいまなざしと、自ら立ち上がる勇氣を鼓舞する励ましに満ちた、なんだかヘンテコで嬉しくなる物語です。



真夜中のカカシデイズ

作者 宮下恵栄
出版社 学研プラス
発行 2011年5月
ISBN 978-4052033490

review



同じ難関中学を目指して一緒に勉強してきた親友が不合格となり、一人進学した学校で、社交性のない聡太は友だちのいない孤独な毎日を送っていた。公立校に進んだ親友とのメールも途切れ、失意を抱えたまま聡太は不登校になり、家でゲームをするだけの鬱屈した毎日を送るようになります。深夜、気晴らしに近所のコンビニに出かけた際に、聡太は不思議な現象に遭遇します。道すがら、横切った田畑に設置されていた四体のカカシたちの話し声を聞いてしまった聡太は、驚きながらも、夜な夜なカカシたちと話をするため会いにかけます。服を着せられたマネキンである、それぞれ個性的な性格のカカシたち。自分の感覚を遙かに越えた彼らの人生観や死生観に聡太は衝撃を受けます。マネキンカカシたちとの交友とその別離から、聡太は新しい扉を開く手がかりを掴んでいきます。

特集
不登校
(総合)



紙版「ハコブネ×ブックス」vol.20

2021年5月1日発行 ●発行人 きむらともお

事務系会社員。趣味で児童文学紹介サイト「ハコブネ×ブックス」(非営利)を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作他、諸々を受賞。



Twitter
連携しています。
@tomoostretch

特集

不登校×ファンタジー

不登校とは、学生なのに学校に行かないことの総称です。かつて登校拒否と呼ばれていた、学校に拒絶反応があり通えない状態も不登校の一例です。なぜ、学校に行けないのか。具体的な理由を言葉にすることが難しいケースもあります。国内児童文学では、不登校のまま足踏みしている子どもたちが数多く描き出されています。次のターンに進めずに葛藤する主人公に、物語は転機を運んでいきます。今回紹介するのは、ファンタジーとの掛け算で、新しい世界に踏み出すきっかけを掴んだ子どもたちの物語です。ファンタジックな異世界との遭遇とはいえ、ただ心を癒されるようなイメージな展開はありません。自分を超えていくための苛酷な闘いがそこには待ち受けています。自身を見つめ直し、より良く生きることを模索した主人公の行く先は、学校に戻るといふ選択肢だけではないこともまたポイントです。



日曜日の王国

作者 日向理恵子
出版社 PHP 研究所
発行 2018年3月
ISBN 978-4569787527

review



小学四年生の時に理由もなく学校に行けなくなった蘭は、五年生になつた今も不登校を続けています。ある日曜日、部屋の窓から見た道路に深い赤色の矢印が浮かんでいることに蘭は気づき、恐る恐る外に出て矢印の示す方向に進み、日曜日舎というギャラリーにたどり着きます。生きて動く人形やキツネの剥製など、不思議な存在に混じって絵を描いていた女子高生の蝶子さんと親しくなつた蘭は、誘われて、ここで日曜日だけに開催されるスケッチクラブに通うことになりました。絵を描くことで少しずつ自分の心を解放していく蘭でしたが、やがて、日曜日舎の本当の姿を見てしまいます。日曜日だけを生きる者たちが集まるギャラリー。そこは時間の流れも違っていました。明るく朗らかなだけではない、陰影が織りなす入念に描かれた一枚の絵画のような趣を感じる傑作です。



かがみの孤城

作者 辻村深月
出版社 ポプラ社
発行 2017年5月
ISBN 978-4591153321

review



安西ところが、入学して最初の一月だけで中学校に行けなくなったのは、女子グループのいじめの標的にされてしまったからです。落ち込んだ気持ちのまま一日を家で過ごす、この前の、ある日、部屋の大きな鏡の中から狼の面を被った少女が現れて、不思議な世界へと誘います。そこに集められていたところと同じ不登校の中学生たち七人が告げられたのは、この異空間の城で、願いが叶う鍵を探すゲームに参加して欲しいという依頼でした。日中の時間を持って余す中学生たちはこの城に集まり、話をするものの、それぞれの心の事情から、その胸のうちは伝えあえるようになるには時間がかかります。やがて大切な仲間となる彼らが、異世界で培った絆でリアル世界の困難を乗り越えて行く姿をじっくりと見せてくれる物語には、沢山の企みと仕掛けが凝らされています。